

クメール・ルージュ（KR）裁判関連文書センター（LDC）開所式典開催

2017年6月27日（火）、日本政府によるノン・プロジェクト無償資金協力の見返り資金を活用して完成したクメール・ルージュ裁判関連文書センター（英語名：Legal Documentation Centre Relating to the Extraordinary Chambers in Courts of Cambodia, 略称LDC）の開所式典が、プノンペンで開催されました。同式典には、日本政府を代表して堀之内大使、カンボジア政府からビン・チン副首相、チア・サボンLDC所長が出席しスピーチを行うとともに、カンボジア特別法廷関係者、当地外交団、NGO等約270名が参列しました。



LDC外観（建物の半分は弁護士会館）

LDCは現在、KR政権期（1975年～1979年）の政権幹部や最も責任のある者が行った非人道的行為等の罪を裁くカンボジア特別法廷（ECCC）で結審した事案（第一事案）の裁判文書（写し）を保管しており、今後、現在審理・捜査中の事案の裁判文書も保管されることが期待されます。また、裁判文書のみならず、関連文献や裁判の映像も保管し、LDC内のパソコンやEライブラリーを利用することで情報へのアクセスを可能にしています。これにより、多くの人々にKR裁判関連の教育・研究リソースが提供されることとなります。また、最大250名収容可能な会議室等を活用したセミナー等の開催により、KR政権による被害者の声を次世代に伝える場として活用することも期待されます。



式典会場の様子

同式典で堀之内大使は、LDC開所の喜びとその設立に尽力された故ソック・アン副首相への哀悼の意を述べた後、これまでの日本のECCC及びLDCに対する支援について触れるとともに、過去の悲劇が繰り返されることのないようLDCが幅広い人々に活用されること、また日本の支援が日・カンボジアの友好的な関係をさらに強化することを望んでいる旨述べました。ビン・チン副首相は、日本政府と国民への感謝の意を表し、「カンボジア政府として、LDCがその役割と義務をうまく果たせるよう、ECCC、在カンボジア日本国大使館、その他の国内外のパートナーと引き続き緊密な協力をお願いしたい」と述べました。スピーチの後には、LDCの施設内の見学ツアーが行われました。



堀之内大使のスピーチ



ビン・チン副首相のスピーチ